

# 聴覚障害児の保護者による SNS の活用 ～テキストマイニングによるブログ分析～

## Utilization of SNS by parents of deaf children ～Blog analysis using text mining～

迫屋 光華<sup>1)</sup>  
指導教員 吉岡 英樹<sup>1)</sup>

1)東京工科大学メディア学部

アブストラクト：インターネット上の情報が増加する中、聴覚障害児の保護者は必要な情報を得るのが困難である。保護者の中にはブログを活用している事例が見受けられる。本研究ではブログを用いて発信された情報を分析し、聴覚障害児の保護者が求めている情報が何かを明らかにする。

キーワード：聴覚障害児, 保護者, ブログ, テキストマイニング

### 1. はじめに

世の中に存在する情報量は常に増加していて、今後も増加し続けるとされている[1]。情報が多いと情報の取捨選択も難しくなる。聴覚障害においてもインターネット上に情報がありすぎると感じている人がいる[2]。欲しい情報が得られないのは単に情報がありすぎるだけでなく、知りたい情報が要らない情報に埋もれていることも考えられる。情報が多い世の中で SNS を通じて同じ境遇の人と交流したり、投稿内容を自身の子育てに参考にしたりしている人がいる。聴覚障害の中には種類や家庭によってさまざまなパターンがある。そのため誰がどのような情報を発信しているのかをまとめれば保護者がどのような情報を求めているのかが明らかになる。

SNS には X (旧 Twitter) や Instagram などさまざまなものが存在するが、X や Instagram は長文の投稿には不向きで聴覚障害に関わることはプライバシーにも関わることであるため、本研究では長文の投稿に向いていて閉鎖的なやり取りも可能なブログを対象とする。また、山本らによるとブログは日々の自分の意見や考えを発信することを目的として書く人が多く[3]、加藤らによると情報提供による

知識共有への指向性があるためブログを本研究の対象とする[4]。ブログの中でもアメーバブログが検索結果の上位に表示されることが多いためアメーバブログを対象とする。

### 2. 研究手法

まず聴覚障害児を育てている人のブログの調査を行う。次に、調査対象者のブログ記事を人工内耳や補聴器のようにテーマごとに分類した表を作成する。そして、表からどのような情報が多く扱われているのかを明らかにする。

### 3. 検証

アメーバブログ内で聴覚障害児について取り上げている人を検索上位から更新頻度などを考慮して8人選び、その方々の基本情報を調べた。基本情報の内容はその方がどんな方で、ブログを始めた理由が何なのか、ブログを開始した時期、お子さんの聴覚障害の種類、お子さんの生年月日、更新頻度、フォロワーの人数といいねの数、コメント欄の雰囲気やコメントの多さ、調べた上での自分の考察の計8項目である。基本情報を調べた上でそれぞれの方のブログ記事一つ一つをテキストマイニング(図1)し、人工内耳や補聴器などのテーマ別に

記事を分けていく。ここでいうテキストマイニングとは大量の文章データから有用な情報をパターン抽出する技術のことである[5]。

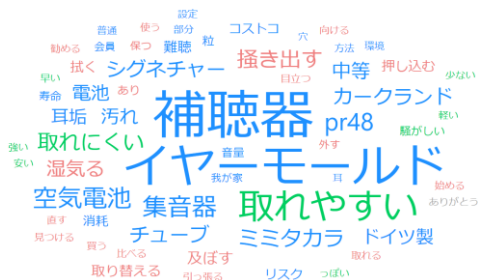


図 1: テキストマイニングの結果の例

#### 4. 結果

テキストマイニングで分ける際のテーマは新生児スクリーニング検査などの検査系、自治体や政府の対応や制度、補聴器、人工内耳、ろう学校・療育、幼稚園・保育園、手話、聴覚障害に関する知識、聞こえの様子、その他の計 10 項目である。

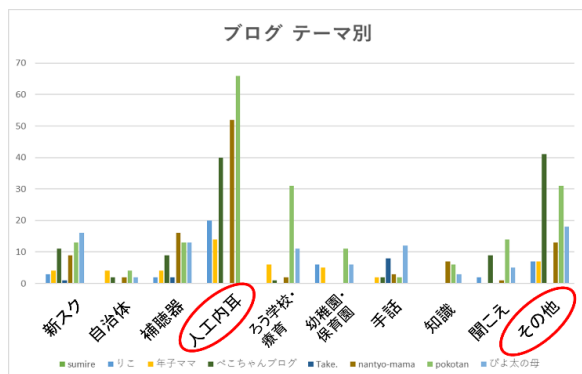


図 2: 各テーマの取り上げられている量

ブログ記事の数や各テーマに関する投稿の量は個々で異なるが、図2のように人工内耳を取り上げている人が多くいることが分かる。理由として、人工内耳は補聴器よりも装用者が少なくインターネット上にも情報が限られていることが考えられる。また、人工内耳手術にはリスクが伴い、手術をするかどうかの選択は子どもの生涯にも関わるため、人工内耳か補聴器かを迷う保護者もいる。こうした保護者達がブログを読んで参考にし、今度は自分が誰かのためにと投稿する人が多いと考えられる。その他のテーマについては子どもの

年齢や成長によって取り上げる内容が異なり、さまざまな情報が投稿されている。また、「その他」の項目の中には聴覚障害がメディアに取り上げたのを紹介しているなど多くの事が含まれているため、人工内耳の次に多いと考えられる。

#### 5. 展望

今回の結果で人工内耳に関する記事が多いことが分かった。今後人工内耳の記事が多い理由をさらに深掘りしていく。インターネット上に人工内耳に関する情報が少ないのか、ブログにする人が多いだけなのかなど理由を明らかにしていく。

#### 参考文献

- [1]「2010年～2020年 世界で生成、取得、複製、消費されるデータ/情報の量および 2021年～2025年までの予測値（単位：ゼタバイト）」、  
〈<https://jp.statista.com/statistics/1410854/worldwide-data-created>〉, 2024年8月20日アクセス。
- [2]PwC コンサルティング合同会社, 難聴児の療育や難聴児・者及びその家族等への支援等にあって必要とされる情報発信及び専門人材の養育に関する調査研究報告書, 2022, 18-27
- [3]山本仁志・諏訪博彦・岡田勇・山本浩一 (2008), 「ブログ空間上のコミュニケーション発生メカニズムの分析」, 『The Japan Association for Social Informatics』, 20, (1), 29-30, 社会情報学会。
- [4]加藤恭子・川浦康至 (2007), 「人はなぜブログを読むのか-知人ブログと他人ブログの閲覧行動」, 『コミュニケーション科学』, 26, 92-203, コミュニケーション科学研究所。
- [5]稲田愛・森裕一, テキストマイニングによる傾向・様相の分析, 経営とデータサイエンス (Web) (岡山理科大学 経営とデータサイエンス (Web)), 2023, 5, 41-53